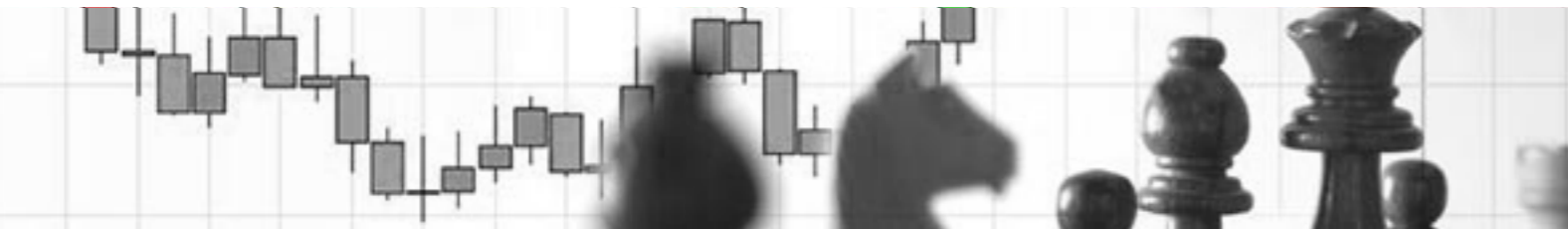




外為取引戦略





外為取引戦略

Editor: Harry Turner

Finance Analyst at IFCMarkets

*This book is property of IFCMarkets Corp.
Regulated Forex & CFD Broker since 2006.
All Property Rights Reserved.*

外国為替取引における唯一の戦略はありません。逆に、効果的な取引するのに一つの戦略を利用するのは足りません。トレーダは様々な市場状況で取引できるように経済と市場の深い知識が必要です。

市場の知識を深め、自分にあった取引戦略を作成するためにIFC Marketsは取引における大事な資料と成功しているトレーダにて利用されている戦略における情報を提供します。

我々が提供する取引戦略は初心者から経験者までどなたにもあいます。下記の各戦略は市場状況により利用できる戦略であり、お客様の知識を高めるために提供されています。



FX分析における外為戦略

5

テクニカル分析における戦略

6

- FXトレンドの基づいた取引戦略 7
- サポートとレジスタンス戦略 8
- レンジ取引戦略 9
- インジケータ取引戦略 10
- 外為チャート取引戦略 11
- ボリューム取引戦略 12
- 複数のタイムフレーム解析戦略 13

ファンダメンタル分析戦略

14

マーケットセンチメント戦略

15

取引スタイルに基づいた戦略

16

デイトレーディング戦略

17

- スキャルピング 18
- フェージング取引 19
- ピボットポイント 20
- モメンタムの見方・使い方 21

キャリートレード

22

ヘッジング

23

ポートフォリオとは | ポートフォリオ取引

24

バイ・アンド・ホールド

25

スプレッド取引とは

26

スイングトレードとは

27

注文よりの戦略

28

アルゴリズム取引

29

FX分析における外為戦略

FX取引の主な戦略はFX分析ツールのもとで作られています。これらの分析ツールはテクニカル分析、ファンダメンタル分析と市場のセンチメントです。

上記の各分析は市場動向を特定し、合理的な予測を行う使用されます。テクニカル分析は主にチャートをしよし過去の相場のもとで次の動きを予想するほうであれば、ファンダメンタル分析は経済全体と政治的要因を重要としています。それに対し、市場のセンチメントは市場参加者はどういう風を感じているかによります。下記その明細を参照できます。

テクニカル分析における戦略

テクニカル分析は主にチャートをしよし過去の相場のもとで次の動きを予想することです。トレンドやレンジ、サポート、レジスタンスレベル、チャートパターン、複数のタイムフレームチャートを利用し、トレーダは様々な戦略を作成できます。

テクニカル分析における戦略は最も人気のある戦略で基本的に過去の相場の動きにより出来ている戦略です。テクニカル分析は資産の価値を確定するよりもテクニカル分析のツールを利用し、その先の相場の動きを確定することです。



FXトレンドの基づいた取引戦略

トレンドはテクニカル分析の最も本質的な概念であります。全てのテクニカル分析は一つの同じ目的があります。それはマーケットトレンドを発見することです。FXトレンドの意味はトレンドの一般的な意味よりそこまで違いなく、市場の方向を意味とします。外国為替市場のトレンドは直線ではなく、ハイ、ローのある変動のことです。

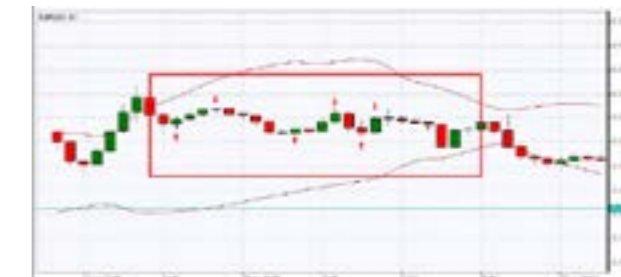


上記で書いてあるようにFX市場はハイ、ローのある、ピークやボトムの変動のことです。



多くの人はFX市場では上下の二つの方向があると思いますが、実は3つのトレンドがあります。

- 上昇
- 下降
- サイドウェイズ



トレーダに3つの選択があります。買って、ロングにするか、売ってショートにするのか又は何もせずに待つかです。

市場が上がっている時に買って逆に相場が下がっているときに売るべきです。市場の方向性がまだ決まってない場合はトレードせず待つべきです。

サポートとレジスタンス戦略

サポートとレジスタンス戦略を把握するためにサポートレベルとレジスタンスレベルの水平線を知るべきです。サポート・レジスタンステクニカル分析は相場のハイ、ローレベルのことです。サポートという用語は買いたい市場参加者が多くそれが売りのプレッシャーを勝つレベルのことをいいます。それは普通前のローレベルで出来ます。レジスタンスレベルはサポートレベルに反し売りのプレッシャーが買うほうを乗切るレベルです。



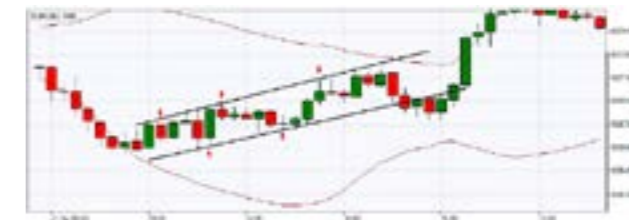
従って、サポートとレジスタンス戦略を作成する前にこの水平線をどうやって発見するか知るべきです。上昇トレンドが続くために各サポートレベルがその前のレベルより上にあるはずですが。

それがない場合は（サポートレベルは前のローまで落ちてしまった場合）上昇トレンドが終了、又はサイドトレンドに変更という意味をする場合があります。レジスタンス場合も同じ背景をみることが出来ます。

サポートとレジスタンス戦略理論は同じです。サポートレベルに落ちたときに買う、又はレジスタンスレベルまで上がったときに売ることです。

レンジ取引戦略

レンジ取引戦略はチャンネル取引とも呼ばれ、マーケットトレンドがない、方向性がはっきりしてない時に使える戦略です。レンジ取引はチャンネル内のプライス変動を発見し、そこレンジを見つけることから始まります。このプロセスは水平トレンドラインのハイとローレベルをつなげることで、「取引レンジ」のメジャーサポート、レジスタンスレベルを見つけます。



レンジ取引では利食いレベルを見つけるのは簡単です。レジスタンスで売って、サポートで買うことです。しかし、そのレベルを切りトレンドができてしまった場合損する可能性があります。

レンジ取引は流動性のある市場状況、相場チャンネル内変動の時最も有利的です。レンジ取引でもストップロスを効果的に利用する必要があります。ストップはレジスタンスの上かサポートの下に設定します。

インジケータ取引戦略

テクニカルインジケータはプライスや取引ボリュームの関数で出来ているシグナルです。インジケータはトレンドを確認するためやテクニカル分析で出来ている様々なレベルの重視確認するために利用されます。従って、トレーダは売買する良いレベルを見つけることができます。インジケータをそのまま使えることも出来ますが、ほかのテクニカル分析と同時に使うことも可能です。

移動平均や発散交差のようなインジケータは売買シグナルを構成します。移動平均の交差は2つの異なる移動平均が交差する場合、発散は価格動向とインジケータは反対方向に移動し、価格のトレンドの方向が弱まっていることを示す場合に起こります。

様々なインジケータがあり、下記のインジケータはその主なリストとなります。

- ▶ 移動平均
- ▶ ボリンジャーバンド
- ▶ 相対力指数 (RSI)
- ▶ ストキャスティックオシレータ(Stochastic)
- ▶ 移動平均収束/発散 (MACD)
- ▶ ADX
- ▶ モメンタム(Momentum)

これらのインジケータを簡単に身につけ、自分のインジケータに基づいた取引戦略を作成することができます。

外為チャート取引戦略

テクニカル分析ではチャートはある期間における見やすい相場のグラフィックです。チャートはプライスが一分、一日、一ヶ月で、一年でどう変動したか見せてくれます。希望の情報によりトレーダは棒グラフ、折れ線グラフ、ローソク足チャートなど利用できます。B

下記は最も人気のあるチャートによる戦略です。

- ▶ 三角
- ▶ フラッグ
- ▶ ペナント
- ▶ ウェッジ
- ▶ 長方形のパターン
- ▶ 頭と肩のパターン
- ▶ ダブルトップとダブルボトム
- ▶ トリプルトップスとトリプルボトム

これらのチャートツールを簡単に身につけ、自分のチャート取引戦略を作成することができます。

ボリューム取引戦略

ボリュームは一つの資産がある期間でどれくらい取引されたのか表示します。ボリュームが多いほどプレッシャの大きいという意味をします。これが最も重要な要因の一つでチャートトレーダにて分析されています。上下方向性を確定するために、ボリュームの動きを分析しています。

トレンドとボリュームを分析し、テクニカルトレーダは二つのプレッシャを二つの方法で確認しています。相場が上のほうに向かっていけば、買いプレッシャが上がり、下のほうに落ちしていればその反対です。

FXアナリストのHuzefa Hamidを述べたように、「ボリュームは取引マシンのガソリン」です。



複数のタイムフレーム解析戦略

複数のタイムフレーム解析戦略は同じ資産を同時に複数のタイムフレームで分析し、取引することを言います。

通貨の価格変動を複数のタイムフレームで分析し、「取引サークル」を確定することはより簡単になります。複数のタイムフレーム分析 (MTFa) を通じてトレンドを短期間か長期間で確定することができます。MTFA分析プロセスは長期間のトレンドを確定することから始まり、それを5分などの短期間で分析をします。

プロトレーダのCorey Rosenbloomは一ヶ月、一週間、デイリチャートでトレンドを確定する必要があると信じています。しかし、複数のタイムフレームでトレンドが同じトレンドを表示するとはいえません。



ファンダメンタル分析戦略

テクニカル分析は過去の相場変動に基づいた分析ですが、外為取引(FX) ファンダメンタル分析は経済の基本的な要因に基づいた分析のことです。

FXファンダメンタル分析の基本的な考え方は経済成長や金利、失業、インフレのようなマクロデータは長期的に市場に大きな影響を与えます。

テクニカル分析アナリストには市場の動きの原因は重要じゃないですが、ファンダメンタル分析アナリストにその「なぜ」という質問が重要です。ファンダメンタルアナリストは国の経済を分析し、それを他国に比較し、将来の相場を予想します。場合によって通貨を売る、又は買う判断をします。

ファンダメンタルアナリストが長期間のタイムフレームを使う理由は彼らが使うデータはボリュームが大きく簡単に分析できるデータではありません。

マーケットセンチメント戦略

マーケットセンチメントとは投資家の市場またはある資産における姿勢のこと입니다。彼らが何を信じてそれが彼らの行動にどう影響するかマーケットセンチメント基本的な課題です。

マーケットセンチメントの重要性を過小評価することはできません。

各トレーダーは市場における自分の考え方あり、それにより取引します。その全てがマーケットセンチメントを構成します。

市場は各トレーダーの取引を含めるややこしいネットワークです。一人だけで市場を動かすことは出来ません。みんな一人のトレーダーとして自分の意見と市場から期待は持っています。例えば、あなたがユーロが上がると思うのに市場の多くの人が違うふうに思ったらユーロは上がりません。

従ってマーケットセンチメントは市場の多くの参加者が相場は上に行くと思っていたらBullishと、逆に下がると思っていたらBearishといます。



取引スタイルに基づいた戦略

FX取引戦略は取引スタイルにより作成しないといけません。人気のある取引スタイルはデイトレ、キャリートレード、Buy and hold戦略、ヘッジング、スプレッド取引、スウィング取引などがあります。これらの取引スタイルによって戦略の作成も異なってきます。

取引戦略の作成と利用はトレーダーの強みと弱みを考えた上でするものです。

取引スタイルに基づいた戦略

デイトレーディング戦略

デイトレーディング戦略は同じ日に通貨を売買すること稼ぐ方法です。デイトレーダーは一つの資産を長く持たないです。

デイトレーディング戦略にはデイリピボット、フェージング、スキャルピングなどの戦略があります。

デイトレーディング戦略の重要なポイントは同じ資産を長く持つほどリスクが高くなります。取引スタイルによって、プライスターゲットは変更するかもしれません。下記にデイトレーディング戦略を身に着けることができます。



スキャルピング

スキャルピング（スカルピング）とはデイトレードの中の手法の一つで数ティックの値幅を瞬時にとりにいく非常に慌しい手法です。数ティックとは1~5ティックぐらいでしょうか。そのときの動きによってもちがいますが。例えば100円で買った株が101円、102円になったら売ってしまうのです。この数を増やしていく感じです。回数勝負で資金をどんどん回転させる短期投資の中

■ 株価が上下動している中で上昇しているときに順張りで入る場合もあれば下落しているときに逆張りで入る場合もあります。買いを入れてから僅か数秒で売ってしまうことも多いです。



長くても買ってから数分で売ることが前提です。僅かな値幅を確実にとることが前提です。なので急落した局面の1~2ティックをとりにいくこともできます。

大前提は長く持たないこと。スキャルピングをするときは数ティックで必ず利益確定する心構えが必要です。まだ騰がるまだ騰がるとは思わないこと、欲張らないことが大切です。数ティックで利益確定した後も勢いがあるならば再び参戦すればいいのです。

フェーシング取引

■ 逆張りとは、トレンドとは、反対方向へ「売り」もしくは「買い」で取引を行う事です。例えば、相場が上昇局面になっている場合に売りで取引を行う、もしくは相場が下降局面になっている場合に買いで取引を行う事により市場に参加すると「逆張り」で取引を行ったと言う事になります。

逆張りはトレンドと反対方向へと取引を行うため、非常に難易度の高い取引方法として知られています。特に値ごろ感から、「安いので買ってみよう」「高いから売ってみよう」という安易な考えから、知らず知らずのうちに逆張りによる取引を行うFX初心者が多く見られます。



日本人の多くは円を売り海外の通貨を購入する傾向が非常に強く、そのため「円高」に対して非常に敏感に反応します。そのため、相場が円高方向へと動き円の価値が上昇すると、一気に円売り他通貨買いに走ります。このように、トレンドが円高方向であるにも関わらず、円を売り円安方向へと取引を行う事が逆張りとなります。

逆張りは、トレンドとは反対方向へ取引をする事から、非常にリスクの高い取引となりますが、相場が天井や底を付けてしまうと、逆に非常に大きな利益をもたらす取引方法でも有ります。また、逆張りとは反対にトレンドと同じ方向へと取引を行う方法として「順張り」と呼ばれる取引方法が有ります。

ピボットポイント

ピボットポイントは、トレーダーが予想に使用する指標で、テクニカルにおける重要な水準を示します。フィボナッチなどその他のテクニカル指標とあわせて使用すると、非常に効果的なトレーディングツールとなります。こちらの内容はマイアカウントでご覧になることができます。ピボットポイントは前日または前週、前月の高値、安値および終値を用いて算出します。

ピボットポイントの起源は何十年も前の穀物取引に遡ります。コンピュータトレードなど無縁で、紙と鉛筆と手信号でフロアトレーダー達が取引をしていると、興奮して冷静な判断ができなくなることがあります。そうしたときに異常な値を掴まないように、前日のOHLC（始値、高値、安値、終値）から「ここを超えたら売り買いしない」基準値を算出しボードの横に貼り付け、トレードの命綱としていたのがピボットポイントの起源です。

成り立ちから考えて、現代のコンピュータトレードでは全く意味を成さないはずなのですが、多くのトレーダーが目安としてピボットポイントを使い続けた結果、事実上の先行指標として成り立ってしまっています。

ピボットポイントの素晴らしいところは、トレードに入る前に相場の反転ポイント、利食いの目安が分かることです。さらに他のSR指標（トレンドライン、フィボナッチ数列、21指数移動平均線等）と重なるときには、反転の可能性が更に高くなります。

$$P = (H + L + C) / 3$$

ピボットポイント = (前のハイ + 前のロー + 前のクローズ) / 3

$$R1 = (P \times 2) - L$$

$$S1 = (P \times 2) - H$$

$$R2 = P + (H - L) = P + (R1 - S1)$$

$$S2 = P - (H - L) = P - (R1 - S1)$$

P - ピボットポイント
L - 前のロー
H - 前のハイ
R1 - 抵抗線1
S1 - サポートレベル1
R2 - 抵抗線2
S2 - サポートレベル2

モメンタムの見方・使い方

モメンタムはオシレーター系のチャートの基本といえます。直訳すると「勢い」もしくは「はずみ」となりますが、ここで言うモメンタムは価格の変化率を見るための方法です。

モメンタムは、相場の勢いや方向性を判断するオシレータ系指標で、当日の終値からn日前の終値を引いて求められるため、短期的な動きを判断する指標として使用されます。売買タイミングを把握する指標というよりは、相場が上昇している時の勢いが弱くなってきているのか、また相場が下降している時の勢いが強くなってきているのかを捉える先行指標としても利用できます。

モメンタムがゼロラインを上抜けたり、割り込んだりした時に売買を行う方法は基本的な売買タイミングですが、頻繁に交差しますのでダマシになる可能性もあります。

対策として、足の長さやモメンタムの算出期間を調整することでダマシを少なくできることもあります。また、モメンタムの平均線を活用することにより、モメンタムの推移を滑らかにでき、ゼロラインとの交差を少なくできます。



キャリートレード

キャリートレードとは、金利の低い国の通貨を借りて他の金融資産を購入し、その後、購入した金融資産を一定期間保持した後に売却し、その購入時の相場価格と売却時の相場価格の差額から利益を出すことを目的としたトレードです。

このキャリートレードは、主にヘッジファンドと呼ばれる金融資産の売買にて企業利益を出す事を目標とした会社が得意としている売買手法になります。

FXの場合には、金利の安い通貨を借りてきて株式やその他金融資産を購入するのではなく、金利の高い通貨を購入する事により、通貨間の金利差益からのスワップポイントを狙ったトレードが見られる事も有ります。

また、このキャリートレードが行われるに当たり、投資家は2~3年の資産運用に対しても2~3ヶ月ごとに借り換える事が多く、借りる通貨について「豊富な流動性と低金利状態が今後も続く」と考えられる事が重要となります。つまり、「キャリートレードが行われている」と言う市場ニュースが流れた場合には、「借りる対象となっている通貨の金利が近い将来に上がる事は無い」と市場参加者が考えている事を示している事になるため、相場の判断材料としても使う事ができます。



ヘッジング

ヘッジングは、投資のリスクを減少させるために取られる行動のことを言います。これは、将来の価格変動リスクを回避したり、軽減したりする各種手法のことを意味し、その種類には様々なものがあります。また、本用語は、垣根を作って危険から身を守ることに由来します。

例えば、ある取引から生じるリスクに対して、逆サイドのリスクを持つ取引（反対売買）を行うことによってリスクを回避するのは代表的な手法であり、株式・債券・商品・為替などの取引で、買い方の値下がり損や売り方の値上がり損を防ぐためによく利用されています。また、反対売買の手法以外に、先物・オプション・スワップなどのデリバティブの利用や、投資対象・投資時期等の分散投資などもあり、どのようなHedgeを行うかは大きなポイントになります。

一般に投資において、リスクをHedgeするということは、裏を返せば収益拡大の機会を限定することでもあります。すなわち、潜在的な収益機会とリスクはトレードオフの関係にあり、通常、Hedgeは収益機会を犠牲にすることになるので、その実施にあたっては十分に注意が必要であります。

ポートフォリオとは | ポートフォリオ取引

ポートフォリオという言葉が、資産運用について調べているとよく出てくるかと思いますが。あまり普段は使用しない言葉なので、意味がわからない人も多いでしょう。あるいは、株取引をしている人にも、あまり馴染みがない言葉かもしれません。実際、一般的な株式投資においてというよりは、投資信託でよく使われる言葉なので、無理もない話です。

しかし、ポートフォリオはすべての投資に関して非常に重要です。このポートフォリオとは、投資対象における金融商品の組み合わせを指します。つまり、どの金融商品を選択して、どういった組み合わせにして、どのような割合で投資するかという、投資の計画書のようなものです。株だけの分散投資でも、株とほかの金融商品との組み合わせでも、使用される言葉です。

例えば、株投資のみを行う場合、国内の株だけなのか、海外の株のみなのか、両方を組み合わせた分散投資なのか。国内のみであれば、どのジャンルとどのジャンルを組み合わせるのか。

IFC Marketsのサポートを受けたNetTradeX 社により開発されたポートフォリオ取引・分析法の効率的かつ簡単な使用のために、PC用NetTradeXプラットフォームにて分析法用パッケージが実装されました。新パッケージを利用するために、取引プラットフォームNetTradeXをインストールして、口座を開設して下さい。ポートフォリオ取引・分析法の理論は金融マーケットの分析の新しい理論であります。相関性の低い金融商品を組み合わせることで、リターンは同じなのにリスクだけ減らすことができるという理論を数学的に証明しました。ポートフォリオは、歴史の中や現代の社会においても活用されています。NetTradeXの場合はFXを取引するわけですが、同じ取引をするにしても1つの戦略に頼って多くの資金を運用するのではなく、複数の通貨ペア、複数の戦略で少額ずつ運用することで、各取引の相関性を低めることでリスク分散を図ります。

バイ・アンド・ホールド

バイ&ホールド (Buy and Hold) は相場の取引手法を指す言葉で、「買ってそのまま保持する」という意味です。一度これと決めた銘柄を買ったら多少の上げ下げは気にせず、長期間にわたって持ち続ける、そういう投資スタイルを指しています。

現物株への投資では王道と言ってもよい手法です。企業の成長とともに株価は上昇し、分割や配当といった恩恵もあり、長い目で見れば銀行預金よりもはるかに有利というわけです。しかし、バイ&ホールドが成功するかどうかは、時代背景にもよります。例えば戦後の成長期にトヨタやソニーに投資して持ち続けていれば、大変なリターンを手に入れることができたでしょう。しかし、バブルの絶頂期に投資していれば、逆のことが起こったこととなります。結局のところ、バイ&ホールドが成功するかどうかは、現状と将来をどれだけ正確に分析できるかということにかかっています。そして長期であるだけに「運」も重要な要素です。



FXでもバイ&ホールドは使えるでしょうか。答えはYESです。例えばドル/円の月足チャートを見ると、年単位のトレンドが存在していることが分かります。こうしたサイクルは景気や金利の循環、貿易動向、国家の盛衰などの要因がからみあって生まれるものと考えられます。もしこうした為替相場の大きな流れにバイ&ホールドで乗ることができれば、FXではレバレッジを働かせることができるだけに、さぞや大きな利益を生むことでしょう。ただし、相場を正確に読む目と「運」が求められることは言うまでもありませんが、FXでバイ&ホールド型の長期投資を行うなら、以下の記事が参考になります。

スプレッド取引とは

スプレッド取引は、2つの商品間の金利差や価格差の差額（スプレッド）を利用して行う取引のことをいう。一般に割高な銘柄を売り、割安な銘柄を買うことによって、利鞘（利益）を得ることができる。商品取引の世界では、これを「サヤ取り商い」とも呼ぶ。本取引は、先物取引やオプション取引、債券取引などにおいて活発に行われている。

一般にスプレッド取引は、ヘッジファンドやディーラーなどが多用する投資手法の一つであり、その主な特徴は、買いと売りの両建て取引、2銘柄のスプレッドの拡大・縮小を予想する取引、市場全体の上げ下げの影響を受けにくい取引であり、その発想次第では多様な投資戦略を考えることができる。

先物取引において、異なる2つの限月取引間の価格差により呼値を行い、取引が成立した場合には、2つの限月取引について、一方の売付けと他方の買付けが同時に成立する取引。



スイングトレードとは

スイングトレードとは、数日間で売買を済ませてしまう短期売買のトレード方法です。

ちなみに数週間から数ヶ月に渡り、数銘柄のポジションを入れ替えながら売買していく方法をポジショントレードといったりもします。

スイングトレードでは、短期間で売買を完結させるため、ファンダメンタル分析（企業の業績や成長性などに投資すること）よりも、テクニカル分析（チャートや過去の株価の値動きを表した指標を参考に、買い時や売り時を探り投資すること）を重視していくことになります。



通常、スイングトレードは、1時間足や日足を見てトレードすることになります。長い足の影響を短い足が受けるため、1時間足や日足でトレードする時も、週足や月足など長い足から見ていくと良いでしょう。スイングトレードでは、簡単な売り買いのルールによって売買するのが良いでしょう。21指数移動平均線はお勧めのチャートの一つです。21単位にしているのは、21単位が相場にフィットすることが多いと判断しているからです。また、単純移動平均線ではなく指数移動平均線の方が相場にフィットすることが多いと判断しています。

注文よりの戦略

注文タイプよりの取引戦略は、ポジションの開設・決済はどんな時間でも行うことができます。注文タイプには、成り行き注文、指値 \boxtimes 逆指値注文、指値・逆指値注文組み合わせ、OCO注文、IFD/IFO注文、Trailing Stop注文があります。

新世代の取引ツールは、注文タイプは複数利用可能となります。

注文は、下記の注文タイプがあります。

- ▶ 成行注文とは、時価での売買を行うように指示する事である。売買は瞬時にプラットフォームに表示されている時価、もしくは電話でディーラーが提示する価格で行われる。
- ▶ 指値 \boxtimes 逆指値注文は、市場での時価とは異なる価格での売買を行う様に出す指示である。取引は注文時に出す条件が市場で満たされた時に遂行される。
- ▶ 損切り注文は、損失を可能な限り食い止めるための注文である。ポジション開設時や設定した指値・逆指値での価格よりも不利な価格が設定される。
- ▶ OCO注文とは時価とは異なる価格での売買を行う注文です。種類の異なる2種類の注文を同時に出し、片方の注文が成立したら、もう一方の注文は自動的にキャンセルになる注文です。

アルゴリズム取引

コンピューターシステムが株価や出来高などに応じて、自動的に株式売買注文のタイミングや数量を決めて注文を繰り返す取引のことです。具体的には、自らの取引によって株価が乱高下しないように売買注文を分散したり、また株価が割安と判断したタイミングで自動的に買い注文を出したりします。利用については、投資家が発注時に証券会社が提供する複数の執行ストラテジー（アルゴリズム）から、自分に合うものを選択する方法が一般的であります。NetTradeXやMetaTrader 4などの取引ツールはアルゴリズム取引に対応しています。

NetTradeX Advisors取引プラットフォームにて自動売買だけではなく、手動モードで基本操作（ポジション開始・決済、発注、標準グラフ利用など）も出来ます。さらに、「ビジュアル取引」（グラフ上の取引操作）の機能が付いています。NTL+ は C、C++、MQL4、Java、JavaScript のようなプログラミング言語を分かりやすく説明していますので、プログラムを書いて、それが上手く機能するかどうか、リスクが高いかどうか、バランス的にはどうなのかを過去のデータを使ってテストすることもできます。

MetaTrader 4は、MQL4プログラミング言語より、エキスパートアドバイザーの作成・利用が可能です。

